

台風直撃で相次ぐ被害

フィリピンへ支援を

富士見の教会呼び掛け

フィリピンをこの秋、立て続けに襲った二つの台風による豪雨で家財を失った人たちに衣類



や文房具を送ろうと、富士見町の富士見カトリック教会が協力を呼び掛けている。教会に通う同国出身者のほか、地域で外国人の暮らしを援助する茅野市のNPO法人「ねこじやらし茅野」も加わるなど支援の輪が広がっている。

台風16号は9月下旬に首都マニラを直撃し、記録的な豪雨をもたらした。10月上旬には台風17号もフィリピン北部を襲い、土砂崩れなどが相次ぎ、両台風の影響で死者は770人余に上った。耕作地も被害が大きく、同国政府はコメの緊急輸入を決めている。

富士見カトリック教会などでシスターを務めるデイル・サーベドラさんは同国出身。10月下旬から2週間ほど、被害の大きかったルソン島などを視察に訪れた。サーベドラさんは、家屋の多くが全壊した地域を回り、貧困層の暮らす地域で家屋がたくさん流されたことや、政府の対応もまだ決まっていない状況も目の当たりにしてきた。

食料品は足りているが、ほかの物資が不足している様子が分かり、サーベドラさんは帰国後、衣類などを集めることに

祖国のためにと持ち寄った衣類を箱詰めするフィリピンの女性たち。22日、富士見カトリック教会

現地へ集め文房具や衣類 動く広がる

した。同教会でミサのあった22日は、諏訪地方のフィリピン人約20人がスポンやTシャツ、セーター、ワイシャツといった洗濯済みの衣類を持参し、箱詰めした。その1人、小平エリザベスさん。富士見町富士見は「ねこじやらし茅野」に入っており、支援の動きを知った同NPO法人代表の岡元春美さん。茅野市中大塩も知り合いに協力を呼び掛けている。

こうした中、岡谷市郷田の衣料品販売「クレア・インターナショナル」は、新品の衣類を大量に送ることを申し出た。女性社長(57)は「ちょうど役に立ちそうなスポンやTシャツがあった。喜んで着てくれるならうれしい」と言う。

教会に集まった衣類や文房具は順次、船便で現地のカトリック教会に送り、被害の大きい場所から届けていく予定だ。ただ、小平さんはフィリピンでの豪雨について「被災状況を伝える報道が日本ではあまり多くなく、知らない人が多い」とし、「さらなる支援が必要」と訴えている。

物資を提供してくれる人は、毎週日曜日の午前9～10時に同教会に直接持参するか、岡元さん(☎090・8846・0491)へ連絡する。